

2019年度（平成31年度）

学校評価自己評価表

福山市立旭小学校

2020年（令和2年）2月19日

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

福山市立東中学校区	校番 10	福山市立旭小学校
最終更新日		2020年(令和2年)2月19日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校課題を的確にとらえ、教職員のみならず、児童・生徒にも課題、目標を自覚させ、効果的に取り組んでいる。 学校としての取組状況がよく分かり、達成状況も分かりやすい。 評価結果に基づく改善策も具体的に効果をあげている。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力は向上が見られる。 自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や力量が育ちつつあるが、十分ではない。 自分の考えや思いを相手に伝えるコミュニケーション能力に課題がある。 相手を思いやる心ややりぬく力に課題がある。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力、コミュニケーション能力、やりぬく力、思いやり</p> <p>21世紀型“スキル&倫理観”を身に付け、自ら考え主体的に学ぶ子</p> <ul style="list-style-type: none"> 東中学校区体育大会リハーサル交流会(校区小学6年生による参観) ESDの推進状況交流 校区小中学校合同授業公開(毎年各学校持ち回り)
--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>『すべては子どもたちのために』失敗を恐れず、チャレンジするとともに、子どもにとって+になるカーになるかの自己判断ができ、将来の自分のビジョンを語る教職員のもとで自律した(自分で考え、判断し、実行する)児童を育成する。</p>	<p>学校教育目標</p> <p>心やさしく、自ら学び、生きぬく力を持った旭っ子の育成</p>	<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力は定着してきているが、根拠をもとに関係づけて説明する力等活用力に課題がある。また「読み取り」の力が弱く文章問題を解く力の育成が必要である。 体力向上に向けて組織的に取り組んできた結果、県平均以上の項目が81.0%となった。投力の向上も見られるが「瞬発力」「調整力」に今後も取り組む。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 毎時間児童とともにめあてを設定し、目的意識を持って学習に取り組むことが定着した。 目的を明確にしたペア学習・グループ学習を行うことが日々の授業で見られるようになったが、まだまだ指導者が説明する場面が多い、児童のつぶやきや行動・発言等が自由闊達に行われる授業改善に取り組んでいく必要がある。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>低学年</p> <p>めざす子ども像</p> <p>中学年</p> <p>高学年</p>	<p>課題発見・解決力</p> <p>コミュニケーション能力</p> <p>やりぬく力</p> <p>思いやり</p>	<p>研究</p> <p>めざす授業の姿</p>	<p>理科(生活科)・特別活動</p> <p>自分の考えを生き生きと表現できる児童の育成～課題解決に向けて協働的な学びのある理科学研究～</p> <p>○児童が自ら課題を見つけ、解決していく授業 ○かかわり合うことで思考が深まる授業 ○学んだことを他の授業や生活に活かせる授業</p>
--	---	--	---	---	--------------------------	--

福山市立旭小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)																																																					
						□指標に係る取組状況	達成評価 プロセス評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況	達成評価 プロセス評価	総合評価	改善方策																																																		
3	確かな学力 基礎・基本の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	★ 継続	学習内容の確実な定着を図り、基礎・基本の学力、活力を身につける。【課 課】 【総合評価指標】 年度末標準学力調査において全学年を全国平均以上	①「わかろうタイム」を毎月、チャレンジプリント(算・理)を毎日実施する。 ②自ら学ぶ授業づくりのために、 A「書くことで自分の意見をしっかりとめさせる活動」 B「効果的なペア・グループ活動」 C「考えを深める全体交流」を設定する。	算・理の単元末テストにおいて、70%以上の児童の割合を85%以上にする。 校内研究授業において、参観した教員からの肯定的評価をA・B・Cそれぞれ80%以上にする。	①単元末テストで70%以上の児童の割合 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> <td>全校</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>92</td> <td>90</td> <td>96</td> <td>70</td> <td>67</td> <td>82</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>94</td> <td>67</td> <td>68</td> <td>85</td> <td>79</td> </tr> </table> 算数82% 理科79% 全体平均は81%		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	算数	92	90	96	70	67	82	82	理科	—	—	94	67	68	85	79	3	3	・1単元や1時間の授業の中で「児童に考えさせる場面」を明確にし、児童が主体的に学べるめあてや、児童の考えを深める発問の工夫を行う。 ・毎月の「わかろうタイム」、毎日のチャレンジプリントを継続して実施する。また、チャレンジタイムは個のレベルに合った内容に取り組ませる。 ・児童の考えをじっくり聞き、切り返し発問等で深めていく。	①単元末テストで70%以上の児童の割合 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> <td>全校</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>90</td> <td>85</td> <td>87</td> <td>77</td> <td>57</td> <td>83</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>90</td> <td>79</td> <td>73</td> <td>92</td> <td>84</td> </tr> </table> 算数80% 理科84% 全体平均は82%		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	算数	90	85	87	77	57	83	80	理科	—	—	90	79	73	92	84	4	3	3	□「書くことで自分の意見をしっかりとめさせる活動」97%「効果的なペア・グループ・全体交流」64%の肯定的評価であった。ペア・グループ活動によって発言の場を増やしたり自信をつけさせたりすることができた。一方で、それを全体交流に生かすことが課題である。 ・色々な意見を全体交流で位置づけるために、クラス全員が一日一回は自分の意見を発言できるようにする。そのために、机間指導で児童の考えを見とり、全体交流での意図的指名につなげる。また、切り替えし発問等で考えを深めていく。
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																							
算数	92	90	96	70	67	82	82																																																							
理科	—	—	94	67	68	85	79																																																							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																							
算数	90	85	87	77	57	83	80																																																							
理科	—	—	90	79	73	92	84																																																							
3	豊かな心 規範意識や自己有用感の育成	★ 継続	9年間を見通した生徒指導の充実を図り、規範意識を高める。【課 課】 特別活動を推進し、自己有用感を高め、	・児童主体の目標設定をさせ、行動化させる。 ・年間及び月ごとの生活目標を守らせることで、児童自らが規範意識を高める。 ・帰りの会でお互いのがんばりを認める場	・達成率90%以上(教師の見取り) ・実施率100% ・児童アンケート90%以上	①年間及び月ごとの生活目標の達成率90% □代表委員会で達成状況を確認し、各クラスの学級委員に呼び掛けることにより児童の規範意識を高めることができた。 ②児童アンケート実施率100% 自己有用感を感じている項目の肯定評価90% □児童朝会や掃除の時間に縦割り活動する場を設け、帰りの会などでお互いのがんばりを認め	4	4	・振り返りで出た良い意見や反省点を翌月にも生かせるように継続して取り組む。 ・各学級でほめ言葉のシャワーやきらきら見	①年間及び月ごとの生活目標の達成率90% □代表委員会で目標に対する効果的な取り組みを確認し、児童朝会等で呼び掛けた。学級や学校としてまとまって生活目標を達成しようとする事ができた。 ②児童アンケート実施率100% 自己有用感を感じている項目の肯定評	4	4	4	・児童会が主体となった取組を今後も継続していく。 ・各学級でのほめ言葉のシャワーやきらきら見つけの実施																																																

			<p>認め合い、高め合う児童を育てる。<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>【総合評価指標】</p> <p>年間30日以上欠席児童率を昨年より減少させる。</p>	<p>を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 縦割り活動をそうじや児童会活動に取り入れ児童のつながりを深める。 児童の欠席状況を全職員で共有し、欠席気味の児童への家庭連絡等を必ず実施する。 	<p>・実施率100%</p>	<p>合うことで、自己有用感や他者の良さに気付かせることができた。</p> <p>③児童の欠席状況の共有及び家庭連絡 <input checked="" type="checkbox"/> 実施率100%</p> <p><input type="checkbox"/>職員室入り口に日々の状況を記載し、全職員で出欠状況を把握。欠席児童宅には担任が必ず連絡を取り、家庭と連携を図っている。</p> <p>【総合評価指標(中間)】 【30日以上欠席児童数】 10月現在1名(昨年度1名)</p>		<p>つけを実施し、自己肯定感を高めたり、学級会の話し合い活動で、他の児童の意見に対して肯定的に意見を発表させたりするなど児童同士で認め合えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 30日以上の長期欠席児童に対して、電話連絡や家庭訪問など児童や保護者との細やかな連携を継続し、学校へ来やすい雰囲気作りを行っていく。 	<p>価 <input checked="" type="checkbox"/> 90%</p> <p><input type="checkbox"/>児童朝会や掃除の時間に縦割りで活動する場を設け、帰りの会などお互いのがんばりを認め合うことで、自己有用感や他者の良さに気付かせることができた。</p> <p>③児童の欠席状況の共有及び家庭連絡 <input checked="" type="checkbox"/> 実施率100%</p> <p><input type="checkbox"/>職員室入り口に日々の状況を記載し、全職員で出欠状況を把握。欠席児童宅には担任が必ず連絡を取り、家庭と連携を図っている。</p> <p>【総合評価指標(中間)】 【30日以上欠席児童数】 2月現在6名</p>		<p>と並行して、児童会による他学年を褒め合う取組の実施なども行っていくことで、児童同士で肯定的な声かけができるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組は実施できているので、今後も継続して家庭との連携をこまめにとる。
3	健やかな体 主体的な健康・体力づくりの推進	★ 継続	<p>運動に意欲的に取り組む、目標を持って体力づくりをする児童を育てる。<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>【総合評価指標】</p> <p>2回目実施の体力テスト県平均以上の項目を85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の体育授業で、セット運動(ランニング3周→サーキット運動、体ランニング3周→体操ストレッチ)を取り入れる。 休憩時間を月に1度以上、30分設定し、児童全員が外遊びを確保する。 	<p>・実施率100%</p> <p>・実施率100%</p> <p>・児童全員が外遊びを行う。</p>	<p>①体育授業でのセット運動の取り入れ <input checked="" type="checkbox"/> 実施率100%</p> <p><input type="checkbox"/>サーキットトレーニングの実施により基礎的な体力の向上を図ることができた。</p> <p>②月一回のロングタイム休憩 <input checked="" type="checkbox"/> 実施率100%</p> <p><input type="checkbox"/>ロングタイム休憩(35分間)の間、児童が中心となって遊びを考えて体を動かすことができた。</p> <p>【新体力テスト県平均以上の種目の割合】 <input checked="" type="checkbox"/> 50%(昨年度67.5%)</p>	4 4	<ul style="list-style-type: none"> 授業でのサーキットトレーニングにおいて、体力テストの平均が低い種目を重点的にできるように、ボール投げや短距離走などを追加して実施することにより体力向上を図っていく。 日ごろの休憩時間や学級活動の時間を利用してクラスみんなで体を動かす機会をつくる。 	<p>①体育授業でのセット運動の取り入れ ・・・ <input checked="" type="checkbox"/> 実施率100%</p> <p><input type="checkbox"/>3学期も重点項目を付け加えたサーキットトレーニングを継続して行った。子どもたちは、習慣化することでスムーズに行えるようになってきている。</p> <p>②月1回のロングタイム休憩・・・ <input checked="" type="checkbox"/> 実施率100%</p> <p><input type="checkbox"/>ロングタイム休憩(35分間)の間、時間一杯体を動かすことができた。児童も寒さに負けず外遊びを行っている。</p> <p>【総合評価指標】 【新体力テスト県平均以上の種目の割合(再測定)】 <input checked="" type="checkbox"/> 60%(達成率70%)</p>	4 3 3	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も体育授業前のサーキットトレーニングを継続する。さらに、反復横とびや20mシャトルランなどの平均値を下回っている種目をサーキットトレーニングに取り入れていく。 休憩時間での体力アップのために来年度も月1回のロングタイム休憩と学年毎の週1回の体育館解放を実施する。

<p>3 市民から信頼される学校 保護者・地域が安心して任せられる学校づくりの推進</p>	<p>継続 業務改善を進め、元気で子どもと向き合う職場環境をつくる (教職員の「やりがい」肯定的評価90%以上)</p>	<p>〇月45時間、年360時間を越えないよう、時間管理を確実に行う。</p>	<p>〇月45時間を超えない職員85%以上。</p>	<p>①見通しを示し、各分掌毎に組織的に業務を行うよう意識づけを図った。 4~9月 時間外勤務を月45時間超えなかった教職員は70%。 ②学級裁量の時間を確保出来るよう、会議の精選、校務支援員の活用等を行った。 教職員アンケート(仕事にやりがいを感じている) 肯定評価92%</p>	<p>3 3 ・主任を核として各部の業務を組織的に行うとともに、個々の時間管理の意識を高める。 ・業務への改善の視点を持ち、カリキュラムマップの見直しを進め、次年度につなげていく。</p>	<p>① 各学年・各分掌毎に組織的に業務を行うよう意識づけを図るとともに時間管理の意識付けを図った。 10~1月 時間外勤務を月45時間超えなかった教職員 79% ② 学級裁量の時間を確保出来るよう、会議の精選、木曜の定時退校、校務支援員の活用等を行った。 教職員アンケート(仕事にやりがいを感じている) 肯定評価100%</p>	<p>4 3 4</p>	<p>・さらに業務改善の視点からカリキュラムマップの見直しを進め、時間とのセットで教育内容の精選・重点化を図り、授業づくりや子どもと向き合う時間をつくる。</p>
---	--	---	----------------------------	---	--	---	--------------	---

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。